

A病棟における新規褥瘡発生率の低下をめざした改善活動

柿原 一葉 坂井田 真夕 松波 直美

【はじめに】

A病棟は循環器・血液内科病棟で、慢性心不全やターミナル期など、ベッド上での生活が長期にわたる患者やADL全介助の患者が多く、褥瘡の発生リスクが高い。平成25年8月～平成26年1月のA病棟入院患者の33%が褥瘡リスクスコア1点以上で褥瘡発生リスクを有しており、この期間の新規褥瘡発生率が1%であった。そこで褥瘡発生率の低下を目的に正しい知識を習得し統一したケアを実施したので報告する。

【方 法】

期間：平成26年8月～平成27年1月

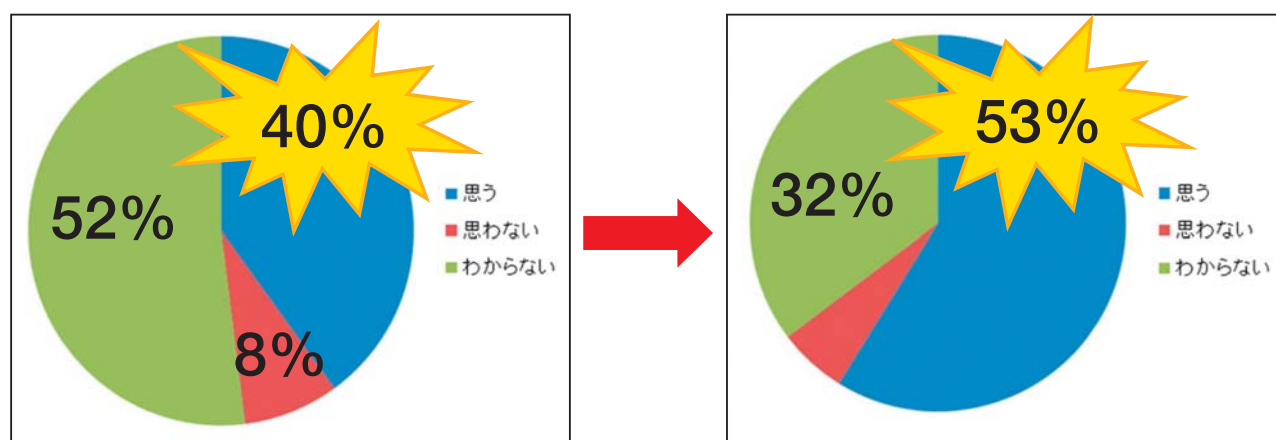
対象・方法：①A病棟入院患者279名を対象に褥瘡リスク評価と褥瘡発生の調査、リスク患者に対して予防ケアの実施、②A病棟看護師23名を対象に褥瘡予防に関するケア方法のアンケート調査（勉強会前後）、勉強会の実施（オムツの吸水量・正しい当て方、背抜きの方法）

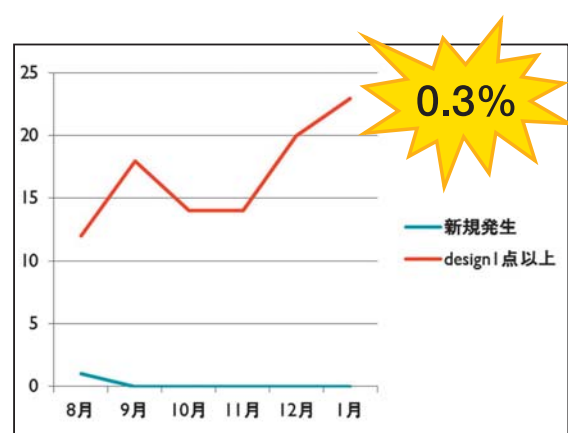
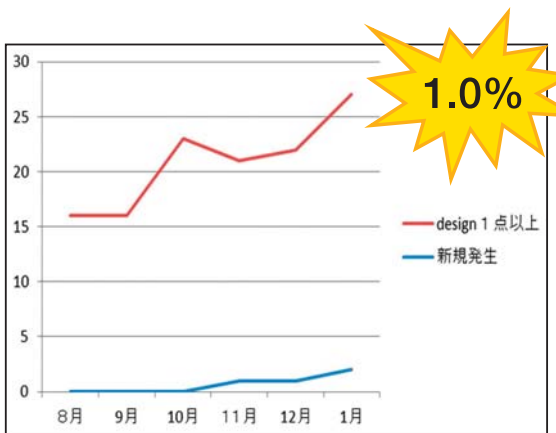
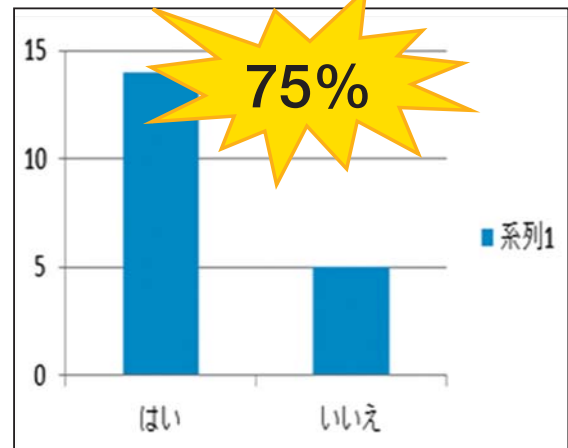
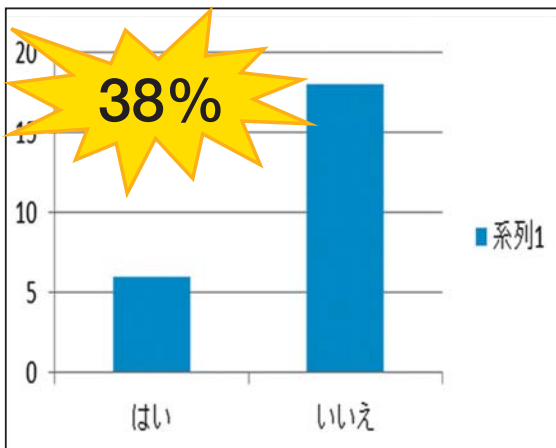
【倫理的配慮】

アンケートは個人が特定できないように配慮した。

【結 果】

看護師の褥瘡予防に関するケア方法のアンケート調査から、知識不足により統一したケアが行なえていない現状が判明した。正しい知識を習得しケアの統一を図るために、オムツや背抜きなどの勉強会を実施した。その結果、オムツの当て方を正しいと感じている割合が40%から53%に上昇、尿取りパットの吸水量の認知割合が38%から75%と改善した。背抜きケアは89%の看護師が実施するようになった。褥瘡発生リスク患者は36%で、新規褥瘡発生率は1%から0.3%に低下した。





【考 察】

病棟看護師にオムツや背抜きなどの勉強会を実施したことで、看護師のアセスメント能力が向上し統一したケアができ、新規褥瘡発生率の低下に繋がったと考える。また院内の褥瘡対策チームとの連携も改善に繋がった一因と考える。しかし患者状況も異なり、一概に発生率が低下したとは言い切れない。また、病棟看護師全体の知識の底上げは行えたが、時間経過と共に意識が低下していく可能性があるためケアの定着化が今後の課題である。